
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。無断引用や転載をお断りいたします。

Copyrighted materials of the authors. Works in progress: Please do not circulate or cite without permission.

2022 年度第 2 回研究会（通算第 2 回目）

日時：2022 年 9 月 25 日（日）13:30-16:30

場所：オンライン会議室

1. 13:30-14:30 塩原朝子（AA 研所員）「SCOPIC プロジェクトの概要」

「ナラティブ」プロジェクトで分析の材料の一つとする予定の Social Cognition Parallax Corpus (SCOPIC) についてその特徴と研究その他への利用可能性について話します。

2. 14:30-15:30 木本幸憲（AA 研共同研究員，兵庫大学）

“Social cognition and syntactic embedding: Corpus-based typology of complementation and their alternatives”

3. 15:30-16:30 全員

今後の活動についての打ち合わせ

以下に 1 と 2 の発表の要旨を付す。

=====

- ・ 13:30-14:30 塩原朝子（AA 研所員）「SCOPIC プロジェクトの概要」

「ナラティブ」プロジェクトで分析の材料の一つとする予定の Social Cognition Parallax Corpus (SCOPIC) についてその特徴と研究その他への利用可能性について話した。

- ・ 14:30-15:30 木本幸憲（AA 研共同研究員，兵庫大学）

“Social cognition and syntactic embedding: Corpus-based typology of complementation and their alternatives”

意味的な「埋め込み」は全ての言語に観察されるが、その方法は言語ごとに異なる。先行プロジェクトではその違いを上記のコーパス SCOPIC を用いて数量的に明らかにする試みを行った。これまでの記述研究の多くは、complementation が意味的な埋め込みを表す無標の構造であると仮定しており、特定の言語 A が Complement clause を持つかどうか、持つ場合どのような構文で使用可能か、という点が興味を中心であった。しかし、SCOPIC コーパスのデータに基づき各言語の preference に着目して考えると、文法性／容認度ベースの記述研究で complementation が容認されるとされてきた言語においても、実際にはその頻度が高いとはいえないことがわかった。この発表では各言語の complementation 以外の方法についても具体例とともに示した。